

令和2年度 自 己 評 価 表（最終評価）

鳥取県立青谷高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	人づくり（キャリア教育の推進） － 自己肯定感を育み、社会で信頼され、社会に貢献する人材の育成 －	今年度の 重点目標	①学力の向上：学びへの意欲向上、基礎学力の充実 ②進路の実現：進路意識の向上、進路指導の充実 ③社会人基礎力の育成：生活習慣の確立、マナー・作法の向上、自己肯定感の育成 ④地域連携の推進：「青谷学」と「課題探究」の充実、地域の行事への参画・参加、保育園・小学校・中学校等との連携、広報活動の推進 ⑤業務改善の推進：時間外業務時間の縮減、学校行事等の見直し、部活動の計画的実施
-------------------	--	--------------	---

評価基準 A：十分達成（100%） B：概ね達成（80%程度） C：変化の兆し（60%程度） D：まだ不十分（40%程度） E：目標・方策の見直し（30%以下）					評 価 結 果（2）月		
評価項目	評価の具体項目	年 度 当 初 現 状	目 標（年度末の目指す姿）	目 標 達 成 の た め の 方 策	経 過 ・ 達 成 状 況	評 価	改 善 方 策
①学力の向上	○学びへの意欲向上 ・授業改革（タブレット端末等ICTを活用した授業実践）の推進	・総合学科の特性を活かした多様な選択科目、少人数制およびティーム・ティーチング等により、わかりやすく、魅力のある授業実践に取り組んでいる。 ・多くの教員がICT等を活用し、昨年度の公開授業では、各教科少なくとも1名がICTを活用した授業を行った。iPad等の活用により、学習意欲が向上した生徒は約79%と肯定的意見が多い。	・各教科科目の特性を活かし、わかりやすく、魅力のある授業実践に取り組んでいる。その一環として、多くの教員がICT等を効果的に活用している。 【指標①】 ICT等を活用して授業を行う教員が80%以上 【指標②】 ICT等を活用した授業の実施によって学習意欲が向上する生徒が80%以上	・ICT等を活用した効果的な授業を行うための職員研修を実施する。 ・ICT等を活用した公開授業を各教科で実施し、教科を問わず積極的に参観し合い、研修を深める。 ・公開授業週間を活かして、更に魅力ある授業づくりにつなげる。	・Google Classroomの活用をはじめとするiPad自主研修会及び教育センター指導主事を講師とするICT活用職員研修会を実施した。 ・すべての教科でICTを活用した公開授業を実施し、教職員が相互に積極的に参観し合った。 ・日頃から教職員が教科の枠を超えて協力し、iPad等の活用を図った。 ・【指標①】について、ICT等を活用して授業を行った教員は89%（iPadを活用して授業を行った教員は75%）であり、目標を9ポイント上回った。 ・【指標②】について、ICT等を活用した授業の実施によって学習意欲が向上した生徒は97%であり、目標を17ポイント上回り、ほぼ全生徒の意欲が高まることがわかった。 ・公開授業週間に職員が授業を相互に積極的に参観した。	B	→教科の特性を活かし、分かりやすく、魅力のある授業実践に努めながら、ICTを活用した授業をさらに推進する。 →G I G Aスクール構想（令和4年度入学生から1人1台端末）を見据えた授業改革の研修や公開授業に積極的に参加できる機会を設ける。
	・授業規律の向上	・授業規律は概ね良いが、授業に対する意欲が不足している生徒がいる。 ・授業に遅刻し、入室許可書の累積枚数が6枚以上の者は1人のみ。	・生徒が授業に意欲的に取り組んでいる。 【指標③】 学校評価アンケート問2で「思う」とする割合が5%増加 【指標④】 入室許可書の累計枚数6枚以上の生徒はいない	・生徒との面談をとおして学ぶ意欲を向上させる。 ・授業開始時に「本時の目標」を明示し、授業終了時には、その達成度を実感できるようにする。 ・入室許可書の厳格な運用と細やかな指導を徹底する。	・【指標③】について、「思う」と回答した生徒は50.8%で、昨年度より12ポイント増加した。 ・アンケートで授業のわかりやすさや教材の工夫などに対する生徒の評価が昨年度より上昇した。 ・生徒面談を定期的に実施し、さらに、個別のニーズに応じた面談をこまめに行った。アンケートで面談に対して肯定的に回答した生徒は80%であった。 ・「本時の目標」の明示を多くの授業で実践しており、授業のわかりやすさに繋がっている。 ・【指標④】について、1月末現在、入室許可書の累計枚数が6枚以上の生徒は4名であったが、年次指導により12月以降の累積はない。		→授業規律が遵守されるように、教科・担任・年次・分掌が連携して、早い段階から指導を継続する。
	○基礎学力の充実 ・学び直しの実施	・基礎力診断テストのDゾーンの生徒の割合が減少傾向の教科もあるが、まだ十分とは言えない。	・基礎学力の定着が見られる。 【指標⑤】 基礎力診断テストの各教科のDゾーンの生徒の割合が年度当初より5%減少	・国語での学び直し教材や学校設定科目（基礎数学・基礎英語）を効果的に活用して、学び直しに取り組む。また、上級学校進学等への対応も授業の中へ組み入れる。	・各教科ともに計画的かつ丁寧に学び直しに取り組んだ。特に英語では、昨年度の定着具合を勘案して年間指導計画を見直した。 ・上級学校進学等に対応する授業内容を適宜組み込んでいる。 ・【指標⑤】について	B	→引き続き、各教科で学び直しの充実を図る。 →引き続き、上級学校進学希望者に対しては、個別に添削指導などを取り入れる。
	・自宅学習の定着	・各教科で課題等を出し、自宅学習の習慣が定着するよう取り組んでいるが、一日平均1時間未満の生徒の割合が高く、まだ十分な成果は出ていない。	・自宅学習時間が増え、授業の予習、復習をする習慣が定着している。 【指標⑥】 学校評価アンケート問12で「思う」とする割合が昨年度より5%増加	・各教科で自宅学習の課題を工夫することで取り組みやすい状況を設定し、提出及び点検を徹底する。 ・自宅学習調査の実施により、生徒が自宅学習を習慣化する機会するとともに、その結果を教員が共有し、生徒への指導・助言に活用する。	・自宅学習時間調査では、ここ数年の中で、1日平均1時間未満の生徒の割合が最も低く、また、平均学習時間が最も長いという好結果であった。 ・【指標⑥】について、「思う」と回答した生徒は昨年度より1.8ポイント増加に留まっている。		→日頃から各教科で授業の予習・復習に取り組めるような課題を工夫し、こまめな提出及び点検を継続する。 →担任・教科担任それぞれの立場で学習の必要性を説き、モチベーションを高めるような働きかけを継続する。

令和2年度 自 己 評 価 表（最終評価）

鳥取県立青谷高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	人づくり（キャリア教育の推進） － 自己肯定感を育み、社会で信頼され、社会に貢献する人材の育成 －	今年度の 重点目標	①学力の向上：学びへの意欲向上、基礎学力の充実 ②進路の実現：進路意識の向上、進路指導の充実 ③社会人基礎力の育成：生活習慣の確立、マナー・作法の向上、自己肯定感の育成 ④地域連携の推進：「青谷学」と「課題探究」の充実、地域の行事への参画・参加、保育園・小学校・中学校等との連携、広報活動の推進 ⑤業務改善の推進：時間外業務時間の縮減、学校行事等の見直し、部活動の計画的実施
-------------------	--	--------------	---

評価基準 A：十分達成（100%） B：概ね達成（80%程度） C：変化の兆し（60%程度） D：まだ不十分（40%程度） E：目標・方策の見直し（30%以下）					
年 度 当 初			評 価 結 果（2）月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況
③社会人基礎力の育成	○生活習慣の確立 ・学校の日課表に沿った規則正しい生活の実現 ・整理・整頓・清掃（3S）の励行	・遅刻者数は減少しているが、欠席者数が増加している。 ・教室内での自身の荷物の整理が十分でない生徒もいる。（机上や床） ・ごみの排出量が多く、分別もまだ不十分である。	・学校を中心に据えた行動意識が醸成され、学校生活のルールに基づいた生活習慣が定着している。 【指標⑩】 欠席率・遅刻率が共に2.00%未満 ・身の周りの整理・整頓ができ、学習環境を整える習慣が定着している。 【指標⑪】 学校評価アンケート問4で「思う」とする割合が昨年度より3ポイント向上 ・ごみ排出量の削減。	・生徒への指導は時間をおかずに適宜行う。 ・保護者への連絡を密にする。（必要に応じて家庭訪問等も行う。） ・正副担任が、SHRで荷物の整理を促し指導する。	・【指標⑩】について、欠席率は1.64%、遅刻率は0.87%であり、多くの生徒は安定した生活習慣が身についている。ただし、欠席率及び遅刻率は1月末時点で算出。 ・保護者への日々の連絡、必要時の家庭訪問はスムーズにできている。 ・【指標⑪】について、「思う」と回答した生徒の割合が昨年度より7.3ポイント上昇。身の周りの整理、整頓はできている。 ・12月末現在における可燃ごみの排出量は3.79kg/人で、昨年度同時期より約25ポイントの減少。（昨年度12月末：5.07kg/人）
	○マナー・作法の向上 ・身だしなみ・あいさつ・言葉遣いの向上	・制服の着こなしが大きく崩れた生徒はほとんどいない。 ・朝から元気よく挨拶できる生徒はまだ少ない。 ・TPOに合わせた言葉遣いができない生徒が若干いる。	・他者を意識し、身だしなみや行動を整えることができる。 【指標⑫】 学校評価アンケート問7で「思う」とする割合が昨年度より5ポイント向上 ・相手のことを思い、自発的に挨拶ができるようになる。 【指標⑬】 学校評価アンケート問5で「思う」とする割合が昨年度より5ポイント向上 ・TPOに応じた正しい言葉遣いができている。 【指標⑭】 学校評価アンケート問6で「思う」とする割合が昨年度より5ポイント向上	・時を逃さず、タイムリーな指導を心がける。 ・教職員の方からも元気よく挨拶をしていく。 ・生徒会執行部による定期的な挨拶運動を継続して行なう。 ・出来ていない生徒に対しては、その場で理解できるように教職員が協力して指導する。	・【指標⑫】について、「思う」と回答した生徒割合が昨年度より11.3ポイント上昇。制服の着こなしに大きな崩れはない。 ・【指標⑬】については、「思う」と回答した生徒の割合が昨年度より6.0ポイント上昇。多くの生徒がきちんとしてい実感している。 ・【指標⑭】については、「思う」と回答した生徒の割合が昨年度より0.7ポイント低下したが、少しずつではあるが意識できる生徒が増えてきた。
	○自己肯定感の育成 ・人権教育・特別支援教育・性教育・食育などの取組の充実 ・褒める活動の実践 ・部活動の活性化 ・ボランティア活動の活性化	・外部人材も活用し、生き方あり方に関する多くの講演会やLHR等を実施している。 ・特別支援教育等の職員研修を実施している。 ・褒める実践が不十分である。 ・部活動加入率が低く、部員数不足の部もあり、部活動の活性化に課題がある。 ・多くの生徒がボランティアに参加したが、生徒の主体的活動の広がり是不十分である。	・そのままの自分を認め、自分を尊重し、自己価値を感じて自らを肯定するとともに、他者の存在価値を認め、自他共に尊重し合える力が身についている。 ・教職員の褒める実践力が向上している。 ・部活動加入生徒の満足度が高まる。 【指標⑮】 学校評価アンケート問20で「思う」とする割合が昨年度より3ポイント向上 ・全校生徒の5割以上がボランティアに参加している。 （【指標⑯】）	・生き方あり方に関する講演会等を精選し、より効果的なものにする。 ・外部人材を活用した講演会やLHRを充実させる。 ・職員研修等を充実させ、生徒の指導に生かす。 ・人権教育LHRの事後指導を充実させ、今回のLHRにつなげていけるように取り組む。 ・生徒のみの活動とならないように顧問が協力して活動を支える。 ・各部で目標を設定する。 ・ボランティア情報の広報・掲示方法等を工夫する。 ・ボランティア参加状況を、年次や分掌とも協力して幅広く集約する。	・生き方あり方に関する講演会等に関して、アンケートの「講演会が進路や生き方を考えるのに役立っていますか」の問いに8割弱の生徒が肯定的回答をしており、目標は達成できていると考えられる。 ・教職員研修に関しても、アンケートの「各種講演会等のキャリア教育にかかる教育活動は充実しているか」の問いに9割以上が肯定的回答をしており、目標は達成していると考えられる。 ・リモートによる人権教育講演会兼ネット上におけるモラル啓発講演会を実施できた。 ・人権教育LHRの事後指導については、各年次が議事録を残したことで年次と分掌間でスムーズな情報共有ができ、充実したものになった。 ・【指標⑮】については、「思う」と回答した生徒の割合が昨年度より1.7ポイント低下。様々な制限（大会中止、遠征自粛等）がある中、部員数不足や顧問の専門性などから充実した活動とはならなかった。 ・【指標⑯】について、ボランティアも制限があり、積極的なアナウンスができず、参加する生徒が少なかった。

令和2年度 自 己 評 価 表（最終評価）

鳥取県立青谷高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	人づくり（キャリア教育の推進） － 自己肯定感を育み、社会で信頼され、社会に貢献する人材の育成 －	今年度の 重点目標	①学力の向上：学びへの意欲向上、基礎学力の充実 ②進路の実現：進路意識の向上、進路指導の充実 ③社会人基礎力の育成：生活習慣の確立、マナー・作法の向上、自己肯定感の育成 ④地域連携の推進：「青谷学」と「課題探究」の充実、地域の行事への参画・参加、保育園・小学校・中学校等との連携、広報活動の推進 ⑤業務改善の推進：時間外業務時間の縮減、学校行事等の見直し、部活動の計画的実施
-------------------	--	--------------	---

評価基準 A：十分達成（100%） B：概ね達成（80%程度） C：変化の兆し（60%程度） D：まだ不十分（40%程度） E：目標・方策の見直し（30%以下）

年 度 当 初					評 価 結 果（2）月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
④地域連携の推進	○「青谷学」と「課題探究」の充実 ・地域への関心の高まり ・成果の発表	・「青谷学」と「課題探究」の学習・活動をとおして、生徒の地域への興味関心が高まった。 ・課題探究成果発表会を青谷町総合支所の施設を借り、地域の方を招いて実施した。 ・「青谷高校活性化を支援する会」の協力で講演会や現地学習が充実した。	・生徒の地域への関心が高まり、主体的に地域に参画・貢献する姿勢・態度が養われている。 ・「青谷学」や「課題探究」の取組をとおして、生徒のコミュニケーション力、プレゼンテーション力が向上している。 ・「青谷学」や「課題探究」の取組に対する地域の理解が深まり、地域から更なる協力が得られている。	・地域の資源の活用方法や地域課題の解決方法を考案し、地域に提案する。 ・3年次の課題探究で地域資源の活用方法を実践する。 ・課題探究成果発表会を地域の多くの方に公開して開催する。 ・「青谷学」の成果発表としてポスターセッションを実施し、作成したポスターを地域の施設等に掲示し、地域の方々に見ていただく。	・「課題探究」において、地域資源の活用方法や地域課題の解決方法を考案、提案し、地域から協力を得た。 ・地域の方を外部講師として招聘することで、生徒は地域の新たな魅力を発見し、さらに研究を深め、地域に対する興味関心の高まりを課題探究成果発表会（12月9日）で発表できたが、新型コロナウイルス感染予防のため、地域の方々を招待できなかった。 ・「青谷学」のポスターセッションを2月3日に実施した。	B	→生徒の興味関心は高まっているため、生徒が更に主体的に地域の方とコミュニケーションをとったり、地域課題の解決方法を考察したりできるよう指導を続ける。 →新たなコミュニケーション（送受信）のやり方を検討する。
	○地域の行事への参画・参加 ・生徒の地域行事への参加数増大 ・生徒の充実感・有用感の高まり ・地域からの生徒・学校への信頼・期待の高まり	・地域行事に参加した生徒が前年度より増加した。 ・ボランティアに参加した生徒の多くが、充実感・有用感を感じている。 ・生徒のボランティア活動等に対して、地域の方から肯定的な評価をいただいている。	・地域活動に50%以上の生徒が参画・参加している。（【指標⑰】） ・地域活動をとおして、参加した生徒の80%以上が有用感を実感し自己肯定感を高めている。（【指標⑱】） ・地域活動で関わった地域の方の80%以上から肯定的に評価されている。（【指標⑲】）	・「青谷学」で、地域行事でのボランティア活動参加を推進する。 ・「課題探究」の実践活動を全てのグループが実施する。 ・スローガン入りのポロシャツを作成し、地域活動への参加意識を高める。 ・地域活動参加時の心得として、社会人として身につけておくべきルール・マナーについて事前指導をする。	・【指標⑰】【指標⑱】について、今年度は、新型コロナウイルス感染予防のため、各ボランティアが中止となり参加できなかったが、「あおこうまるしえ」（10月30日道の駅西いなば気楽里）において、外部の方の96%から肯定的に評価された。	－	→引き続き、ボランティア参加の意義等について指導する
	○保育園・小学校・中学校等との連携 ・地域のすくすく保育園、青谷小学校、青谷中学校との連携 ・「青谷高校活性化を支援する会」、青谷町総合支所との連携	・すくすく保育園と青谷小学校との連携は進んでいるが、青谷中学校との連携が十分にできていない。 ・青谷町総合支所を中核とした、「青谷高校活性化を支援する会」等の地域の諸組織との連携がとれ、本校に対してさまざまな支援をいただいている。	・すくすく保育園、小学校、中学校との連携の内容が充実している。 ・すくすく保育園のボランティア参加者が前年度より増加している。 ・「青谷高校活性化を支援する会」等で定期的な意見交換が行われ、地域の協力が得られている。	・青谷中学校との連携のあり方を検討する。 ・教科、進路部、年次等と連携して、保育士や幼稚園教諭を目指している生徒への参加を呼びかける。 ・「青谷高校活性化を支援する会」及び「青谷地域にぎわい創出事業」の会合等へ出席し、本校の取組を報告し、地域人材の情報や実践活動の協力を得る。 ・課題探究の実践活動で青谷の良さをPRする	・「青谷学」と「課題探究」において、小学生や地域の方と一緒に田植えと稲刈りの体験を行った。 ・「異文化理解」において、小学生と英語で読み聞かせの交流を行った。 ・「青谷地域にぎわい創出事業」の会合等へ出席し、協力を得た。 ・道の駅西いなば気楽里において「あおこうまるしえ」を開催し、「青谷の魅力」をPRした。 ・来年度、鳥取大学の学生とリモート会議による地域連携を実施する計画を立てている。 ・「青谷高校活性化を支援する会」の全体会は2回開催され、出席をして本校の取組状況等を報告した（各部会は新型コロナウイルス感染予防のため未開催）。	B	→引き続き、青谷中学校との連携（数学に拘らず）を検討する。
	○広報活動の推進 ・ホームページの充実と更新 ・地域や中学生などへの情報発信	・ホームページのデザインを一新し、迅速な更新を行っている。 ・学校のポスターを作成し、市内各所に掲示していただいた。 ・「あおこうだより」を年間4回発行した。 ・PTA広報誌「灯台」を年間4回発行した。 ・「青谷町総合支所だより」に、隔月ペースで本校の記事が掲載された。	・ホームページの閲覧者数が増加している。 ・学校のポスターや「学校案内」「あおこうだより」「青谷町総合支所だより」等による情報発信を通じて、中学生や地域の方の本校への興味関心が高まっている。	・ホームページが閲覧者にとってより見やすく利用しやすいものになるように継続して取り組む。 ・ホームページを更新できる職員を更に増やす。 ・ホームページに地域向けのコンテンツを作り、地域の方に見ていただく。 ・学校のポスターを新しく作成し配布する。 ・「学校案内」「あおこうだより」を広く配布する。 ・「青谷町総合支所だより」で本校の魅力を積極的に地域に発信できるよう継続して情報提供を行う。	・ホームページを閲覧者がより見やすく利用しやすいものに改善した。 ・ホームページを更新できる職員が増え、滞ることなく最新情報を提供した。 ・「あおこうだより」をホームページで閲覧できるようにした。 ・「青谷町総合支所だより」の6月号、9月号、10月号、12月号へ情報提供を行った。 ・山陰観光連盟の依頼による関西地区主要駅、車両デジタルサイネージ等に掲出する動画出演、主要駅に掲示するポスターの撮影の協力、またFM鳥取に生出演し、学校のみならず地域の魅力を発信した。 ・中電エネルギーウインドウギャラリーに、本校の特色ある取組の概要を展示した（9月末～12月末）。 ・高等学校課の支援により、地域みらい留学に参加するとともに、スクール・オブ・ロックにおいて学校紹介動画及びCMを作成し発信した。	A	→引き続き、新しい取組等を地域に発信する。 →ホームページを更新できる職員の増加に継続して取り組む。 →動画のアップができないか検討する。

令和2年度 自 己 評 価 表（最終評価）

鳥取県立青谷高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	人づくり（キャリア教育の推進） － 自己肯定感を育み、社会で信頼され、社会に貢献する人材の育成 －	今年度の 重点目標	①学力の向上：学びへの意欲向上、基礎学力の充実 ②進路の実現：進路意識の向上、進路指導の充実 ③社会人基礎力の育成:生活習慣の確立、マナー・作法の向上、自己肯定感の育成 ④地域連携の推進：「青谷学」と「課題探究」の充実、地域の行事への参画・参加、保育園・小学校・中学校等との連携、広報活動の推進 ⑤業務改善の推進：時間外業務時間の縮減、学校行事等の見直し、部活動の計画的実施
-------------------	--	--------------	---

評価基準 A：十分達成（100%） B：概ね達成（80%程度） C：変化の兆し（60%程度） D：まだ不十分（40%程度） E：目標・方策の見直し（30%以下）					評 価 結 果（2）月		
評価項目	評価の具体項目	年 度 当 初 現 状	目 標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
⑤業務改善の推進	○時間外業務時間の縮減 ・時間外業務時間縮減の推進	・時間外業務時間の全体平均は少ない。 ・昨年度の目標、前年度比10%減は未達成。 ・月45時間以上の延べ人数が増加。	・時間外業務時間縮減によって教職員が健康で、教育活動が充実している。 【指標⑳】 月80時間以上の者0人 【指標㉑】 教職員の年休取得が平均年15日	・管理職は勤務状況を把握し、日常的に声掛けを実施する。	・毎月開催している衛生委員会の結果を校内掲示板に掲載し、時間外業務の状況等について報告した。 ・給与・勤怠管理システムによって時間業務の状況を把握し、日常的に声掛けを実施した。 ・【指標⑳】について、時間外業務について、月80時間以上の者は0人であった。 ・【指標㉑】について、長期休業期間や定期考査期間等に年休取得を奨励した結果、令和2年は12.66日であったが、新型コロナウイルス感染症に係る特別休暇の取得状況も勘案すると、目標をほぼ達成した。	B	→継続して取り組む。
	○学校行事等の見直し ・学校行事等の精選	・行事や講演等が多く行われ、生徒・教職員に負担感もある。	・行事の見直しが実施され、生徒・教職員の負担感が軽減されている。	・諸行事等の優先順位をつけたり、重複する内容の行事等を見直したりする。	・新型コロナウイルス感染予防により、中止となった行事もある。 ・リモートにより、人権教育講演会と情報モラル講演会を兼ねて開催した。	C	→継続して取り組む。
	○部活動の計画的実施 ・部活休養日の適正な実施 ・顧問間の部活業務分担	・多くの部が週一日休養日を設けている。 ・部顧問による部活業務の分担を推進しているが、まだ改善の余地がある。	・年間計画・月間計画に基づいて、適正に部活動の運営が行われている。	・管理職は各部の活動状況を把握し指導する。	・各部は、活動計画及び実績報告を提出するとともに、「部活動に係る方針」の規定を遵守しながら活動した。	B	→継続して取り組む。